

水源涵養林の植林契約を締結

～調印式を開催～

南九州コカ・コーラボトリング株式会社(本社：熊本市南高江 代表取締役社長 本坊幸吉氏)は、(財)阿蘇グリーンストックの協力で、阿蘇市蔵原の市所有の山林11ヘクタール(いこいの村の南側)に、広葉樹8000本を4年間にわたり植林することが決まり、2月23日、一の宮保健センターで、調印式が行われました。これは、清涼飲料水を製造する同社が、いい水を生み出す水源涵養林の大切さを社員たちに知ってほしいと計画されたもので、4月15日に、最初の植林作業を行います。当日は社員やボランティア約200人でクヌギやコナラなどの広葉樹2000本を植える予定です。

なお、この植林地付近の、みんなの森では、平成19年秋に「全国育樹祭」が開催されるとあり、佐藤市長も「このような環境を守る、よくする活動が広がることを大変うれしく思う、貴社に心から感謝します」とお礼を述べられました。



まちの
わだい



車を寄贈いただきました



教育事業に役立ててくださいと、阿蘇市教育委員会に、一の宮町中通のシンエイ産業株式会社(代表取締役社長 佐藤孝幸氏)から、軽自動車1台が贈られました。

佐藤社長はこれまでも教育関係などに多くの善意をいただいています。誠にありがとうございました。

「文化ホール」を考える講演会

合併協定事項として建設が予定される「阿蘇市文化ホール」のあり方を広く皆さんと考える取り組みとして、「公共ホールの使命と役割」と題した講演会を2月10日、就業改善センターで行いました。これは、よりよいホールづくりを提案いただく住民に、ホールについての基本的な知識と次代のニーズ、先進地の運営形態などを知ってもらおうと市が計画したもので、財団法人地域創造の津村卓氏が講演。

参加した住民は「阿蘇にふさわしい文化ホールを創りたい」「運営は市民が頑張らないと」など講演後もそれぞれの想いを覗かせていました。

なお、阿蘇市文化ホール建設については、今後も、市民会議はじめ関係者会議などを活発に行いながら進めてまいります。



「おはようございます！」と子どもに声かけ

小中学校登下校安全確保ボランティア協力員

～村上敬郎さん～

教育委員会が募集している「登下校安全ボランティア」に、快くご協力いただいているのは、西町の村上敬郎さん(69歳)。

村上さんは、募集を知り「子どもが犯罪や事故に遭うのはいたたまれない、少しでも私が役に立てば」と、1月10日から、毎日朝夕、蔵原の交差点に立ち、横断する子どもたちを見守っておられます。

子どもが信号に近づくと、手押し信号のボタンを押す村上さん。「おはようございます」と互いに挨拶する様子は、朝からとてもさわやかで、村上さんの気持ちが子どもたちにも伝わっているようです。

村上さんの他にも総勢93名の方々から、このボランティア活動にご協力をいただいております。



がんばれ！阿蘇高校女子柔道部

全国高校柔道選手権に出場



東京の日本武道館で3月21日に開催される「第28回全国高等学校柔道選手権大会」に、伝統ある阿蘇高等学校女子柔道部が出場を決めました。種目は団体戦のみで行われます。

柔道部の皆さんは、顧問の松岡先生の指導のもと毎日厳しい練習に励んでいます。新チームになって県内の3の大会全て優勝。個人でも九州大会トップのメンバーぞろいとあって、今大会の活躍が期待されます。応援よろしく願いいたします。

竹中未来(1年) 松尾はる陽(1年) 平田真梨子(2年)
井上愛那香(1年) 津田佳奈(2年) 高村絵夢(2年)

女性たちが道を考える会立ち上げ

中九州横断道路、
国道57号4車線化の
早期実現を願い



「阿蘇の“未知”道を考える女性の会」(会長 田中弘子 発起人団体：阿蘇法人女性部会、JA阿蘇、商工会女性部、阿蘇市女性団連絡協議会、阿蘇市食生活改善推進協議会、生活研究グループ連絡協議会、ASO+1)が、このほど立ち上がりました。会は「生活を支える道路建設は地域を変えるほど影響が大きい、もっと女性の視点で道づくりを考え、声を上げていこう」と結成された大きな組織です。

2月9日、農村環境改善センターで、初めての「集い」が開かれ、国土交通省熊本河川国道事務所福崎課長、阿蘇地域振興局土木部片山主幹を講師に招きフォーラムを実施。約200人が参加しました。

会は今後、中九州横断道路沿線市町村の女性グループとの交流を盛んにするなど、道路建設への意欲を最大限にアピールし、積極的な活動を行います。

みのつくり名人の柳川さん

～かやは生活の万能草～

跡ヶ瀬の柳川ミエトさん(77歳)が「みの」を作り、ASO 田園空間博物館に贈られました。柳川さんは数時間で一着編めるベテランかや職人。前の晩、端辺から刈ってきたかやを水に漬けます。柔らかくなったところで「みのがやわき」という葉と芯をはがす作業をします。これを干し、みのを編むのです。みのがやわきは当時の子どもの仕事で「冬は濡れたかやが冷たくてつらかったが、みのを売するため毎晩編む母のためにがんばっていた」と柳川さん。硬い芯は牛のしたべら(鞍)になっていました。みのの利用は昭和30年代まで続いたそうで、阿蘇駅近くの市まで、十数枚のみのを背負って歩いていたことが柳川さんの懐かしい思い出。これからも、すげ傘や、みのを作って、昔の人の知恵や工夫を知る学習に役立ちたいそうです。



献血運動に貢献、 県から感謝状

～阿蘇ライオンズクラブ～

2月9日、阿蘇保健所で、平成17年度献血推進優良団体感謝状の贈呈式が行われ、河津所長より阿蘇ライオンズクラブ会長 森 勇三氏に熊本県知事感謝状が贈られました。

阿蘇ライオンズクラブは、献血の必要性や重要性を深く認識され、平成10年9月に第1回目の献血を実施して以来、現在まで年間2回のペースで、クラブ員一丸となって積極的に献血運動を展開してこられました。今回、これまでの功績と今後他の模範となる団体として、県知事より感謝状が贈られたものです。



パン作り方おしえてくれてありがとう。

～小規模作業所「夢屋」の 皆さんと小学生の交流～

いつも店の前からパンを焼くいい香りのする障害者の小規模作業所「夢屋」の皆さんが、地域との交流事業として、一番ご近所の宮地小学校の児童たちとパンづくりを行いました。児童たちは牛舞あそ冒クラブのメンバー33人で、2月27日、学校で、まず、夢屋の代表宮本誠一さんから「パンはなぜふくらむの?」という、科学的なところから説明を受け、そのあと、夢屋の人たちのアドバイスでつくったパンを、火から熾した炭火焼にして食べました。

なお、夢屋では、定期的に地域交流を行い、障害者と地域が自然に分かり合えるようつとめられています。



これぞ極めつけの個性派看板！

～散策好きの女性に人気～



(株)まちづくり阿蘇一の宮<TMO>(代表 長尾章さんほか56名)は、「一の宮町中心地街地活性化基本計画」の一環で、通り全体に統一した看板を設置しました。制作費用は、TMOと店の折半。

より一の宮らしさを演出するための工夫をされたこの看板は女性たちに人気。

木製屋根付きで中央の飾りは、各お店のメイン商品を木彫りでぶらさげるアイデアです。

今回37店舗がこの看板を設置したことで、粋な街並みが演出できました。ぜひ、一の宮町の市街地を歩いてみませんか。

思わず笑える看板もありますよ。



台風に倒れた木を机イスに変えプレゼント

坂梨小学校同窓会(俵忠也会長ほか297名)は、平成16年の台風18号で倒れた坂梨小学校校庭のプラタナス(樹齢130年)をそのまま処分するのはしのびないと、テーブルとイスに作り変え、1月末、学校に届けました。倒れたプラタナスの木は、歴史ある坂梨小学校の記念樹として130年前、4本植えられたうちの一本。以後、学校のシンボルとなっていました。

大塚美義校長は「学校新聞の愛称もずっと『プラタナス』。その木が倒れ悲しい思いでいましたが、同窓会の方々のご好意で、こうして形を変え、また学校に戻ってきました。児童たちも喜んでいきます。」とお礼を述べられました。

なお、同窓会の皆さんは、浄土寺牧の公園の管理もされています。

(詳しくは20ページの桜の名所のコーナーを参照)



如月市で内牧商店街に活気

～阿蘇市の誕生日もお祝い～

内牧1区から5区までの商店街が、2月の休みの日に会場を各区持ち回りで催した「如月市」は、日ごろのご愛顧を込めたおもてなしで、2月の寒い時期にもかかわらず、たくさんの人出で賑わいました。また、内牧2区の開催日2月11日は、阿蘇市誕生1周年を記念して、無料でそば粉入りのドーナツを無料で振舞い、訪れた人たちに喜ばれました。

振り込め詐欺被害を寸前に防いだ 古城郵便局員に感謝状

詐欺電話により金を振り込もうとした女性を救ったとして、古城郵便局の山中逸朗局長(小池)と局員の山邊榮喜さん(町1区)が2月2日、阿蘇警察署長から感謝状を贈呈されました。

事件は1月19日、近くに住む女性(56歳)が200万円の定期預金を解約したことが発端。その金を振り込みたいと急ぐ素振りに「はっ」と思った局員が、女性から事情を聞き、事実確認をさせるなど、すばやく対処し、事件を未然に防いだものです。詐欺の電話は、警察と偽った男性で「息子さんが仕事場で不祥事を起こした、示談金が必要」と話したそうで、離れて暮らす息子を思い、とっさに行動に走ったということです。

阿蘇警察署長は「昨年の県内の被害はオレオレ詐欺84件、架空請求詐欺73件、融資保険金詐欺305件。この対策として阿蘇管内の金融機関を集めて毎年防犯会議を行っています。今回、注意マニュアルを日ごろから心がけ、被害を食い止めた古城郵便局に感謝します。」と述べられました。



将来の夢へ大きくステップ ピアノコンクールで金賞

第3回さいたピアノコンクールが1月15日、ウイングまつばせで開催され、予選大会を1位通過していた内牧小学校4年の西村美月さん(成川)が見事本選でも金賞に輝きました。

美月さんはピアノを4歳から初め、将来ピアニストになりたいという目標に向かい、努力している、しっかりした女の子です。コンクールの時も「絶対1位になって、お世話になった先生にお返ししたい」と思って弾いたそうです。

今後、先生の「周りの人たちへ感謝する気持ちを忘れずに」の言葉を胸にステキなピアニストをめざします。

*4月6日、ウイングまつばせで入賞者メモリーコンサートが行われるそうです。

中華人民共和国駐日本大使館の公使らが表敬訪問

2月17日、中華人民共和国駐日本大使館の公使、程永華氏らが阿蘇市役所を訪れました。

程氏は別件で九州入りされた折、古くからの友人である佐藤市長に会いたいと、足をのばされたものです。二重の峠から初めて阿蘇を見てその美しさに感動したことを市長に一番に告げられ「阿蘇の自然は、中国の自然と違います。中国人にはとても魅力を感じる場所です。今、中国は年間3,000万人が海外旅行する海外ブームです。阿蘇の観光はPRすれば必ず伸びるでしょう。」と産業・観光について話をされ、国際環境観光都市を目指す阿蘇市にとって非常に参考となる情報交換の場となりました。



阿蘇産大豆キャンペーン開催中!

阿蘇地方は今や良質大豆の産地

阿蘇で現在栽培されている大豆は“豆腐用大豆の王様”と言われる「フクユタカ」という品種で、その品質と収穫量で阿蘇は県下屈指の大豆の産地となっています。

詳しくは…
JA阿蘇営農部 Tel: 22 - 6115



「阿蘇めぐみゆたか」と愛称が決定

この阿蘇産大豆を使って、JA阿蘇が主催、阿蘇地域振興局、阿蘇市が後援したキャンペーンが2月から3月いっぱい開催されています。その一環として行われたのネーミング募集でフクユタカの愛称が「阿蘇めぐみゆたか」と決まりました。



ぜひ、豆腐を味わってください。

「阿蘇めぐみゆたか」で作られた豆腐はキャンペーン参加店で取り扱っています。木村豆腐店(坂梨)、豆の匠(宮地)、嶋田豆腐店(南黒川)、大塚食品(内牧1区)。

また、はな阿蘇美のレストランでは豆腐料理が味わえます。内牧温泉でも6つの宿泊施設が参加し、温泉と豆腐が楽しめる企画を実施中です。

阿蘇市内の小中学生が集まって楽しい一日

「第1回阿蘇市子どもまつり」が、2月18日、阿蘇体育館で開催されました。

このまつりは、市内の子ども達みんなが仲良く手をつなぎあい、友達の輪を広げようと、阿蘇市子ども会育成連絡協議会(会長 井野勝明さん)の主催で行われ、この日は500人の人出で賑わいました。

午前中はステージで、波野小の神楽、阿蘇少年少女合唱団の合唱、宮地小の牛舞、阿蘇中の吹奏楽、坂梨小の虎舞が発表され、午後は、体験活動として、風船アート、ビーズ手芸、竹とんぼ・凧つくりを楽しみ、みんなとの思い出ができました。また、お昼には、保護者が腕をふるい、カレーや焼そば、だご汁、綿菓子、ぽん菓子などを手作りして、行列ができる盛況ぶりでした。

